



亀っ子だより

第37号

— 亀崎小学校 校長通信 — 2021年3月24日

令和2年度 卒業式式辞

132名の6年生のみなさん、卒業おめでとうございます。

今、みなさんに卒業証書を手渡しました。みなさんのしっかりとした態度を見て、とてもうれしく、そして誇らしく思いました。みなさんが手にした卒業証書には、6年間の皆さんの努力とともに、これまで温かく見守ってくださったご家族や地域の皆さん、教え導いてくださった先生方の深い愛情が込められていることを忘れないでください。

保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。いろいろなことを乗り越え、大きく、たくましく成長した我が子をご覧になり、感無量のことと推察いたします。お子様の入学以来、本校教育活動へのご理解とご協力を、心より感謝申し上げます。特に今年度は、保護者の皆様のお力添えなしに乗り切ることはできませんでした。本当にありがとうございました。

さて、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年でした。3月から5月末までの3か月間、学校が休業となり、再開された後も、授業中もマスクを着用しなければならなかったり、朝会や児童集会、ペアでスマイルが行えなかったり、昨年度までとは違う日々が続きました。安心・安全でなければならない学校が、いつもとは違う緊張感に包まれる中、亀崎小学校の子どもたちが大きな混乱もなく、この1年を過ごすことができたのは、6年生の皆さんが、全校の模範となる姿を見せてくれたからだと思っています。みなさんの落ち着いた授業の様子、委員会活動やクラブで見せたリーダーとしての姿、通学班での優しいお兄さん・お姉さんとしての姿、このような日頃のみなさんの姿が、亀崎小学校の進むべき方向を指し示し、みんなを正しい方向に導いてくれました。私は、みなさんに心から感謝しています。

「疾風に勁草を知る」という言葉があります。強い風が吹いて、初めて強い草であることが分かるという意味です。穏やかな時は、強い草も弱い草もすくすくと育ちますが、強い風が吹いた時、地面にしっかりと根を張り、しなやかで強い体をもつものしか耐えることはできません。強い風が吹いた時こそ、真に強いものかどうかが分かるのです。私たちも、逆境に見舞われた時こそ、自分の真価が問われる時と思い、普段から志をもち、その志を貫く強さとしなやかさを身につけておくことが大切です。今年度は、まさに疾風が吹き荒れる1年でした。みなさんは、その強い風に負けない強さとしなやかさをもつ人であることを私たちに見せてくれました。このことを大きな自信として、中学校でも勉学に励み、心と体を鍛え、自分の夢へと進んでいってほしいと願っています。

しかし、人というものは、くじけそうになる時も、自分に負けそうになる時もあります。今年度、コロナ禍の中、みなさんが亀崎小学校のリーダーとして立派であり続けられたのは、仲間がいたから、支えてくれる人がいたからではないでしょうか。あるオリンピック選手が「自分のためにがんばる力よりも、支えてくれた人のため、応援してくれた人のためにがんばる力の方が何倍も強い」と言っていました。みなさんは一人ではありません。後ろには、みなさんのことを自分のこと以上に大切に思うご家族がいらっしゃいます。隣を見てください。ともに歩み、励まし合う仲間がいます。周りを見てください。みなさんの成長を願い続けている先生がいます。これから皆さんが歩む道の中で、苦しいことも悲しいこともあります。その時、自分は決して一人ではないということを思い出してください。みなさんを応援している人はたくさんいるのです。

私の好きな言葉の一つに「努力するものは希望を語り、怠けるものは不満を語る」というものがあります。巣立ち行く皆さんにこの言葉をはなむけに贈りたいと思います。

これからも何が起こるか分かりません。しかし、どんな時であっても、みなさんが幸せな人生を歩むために、物事を前向きに考えていくことを忘れないでください。挑戦することを恐れず、自分を高めていくことを求め続けていってください。みなさんが、「希望」を語る人であり続けることを心から願い、私の式辞とします。

令和2年度 修了式校長の話

今、代表の人に修了証を渡しました。教室で、通知表とともに皆さんに手渡されます。この修了証は、みなさんが一つ上の学年に上がるにふさわしい人に成長したという証です。通知表とともに大切に持ち帰り、お家の人に渡してください。

さて、この一年間、みなさん、先生方、そして私自身の健康を心配し続けてきました。今日、修了式を無事迎えることができて、とてもうれしく思うとともにほっとしています。今日を迎えることができたのは、先生方がどうしたら亀崎小学校のみんなを守ることができるのかと一生懸命に考え、その考えに沿ってみなさんがきちんと実行し、お家の人たちがみなさんを支えてくださったからです。亀崎小学校の先生方の知恵と、みなさんの素直さと、お家の人の愛情の賜物だと思っています。「みなさんの素直さ」についてもう少し話をします。甲子園に何度も出場している高校の野球部の監督さんが「人が成長するために絶対に欠かせないものは何ですか」と聞かれたとき、「素直さです。素直な子は伸びる」と言っていました。言われたことをきちんと行おうとする心を持つみなさんは、きっとこれからも大きく成長していくものと私は信じています。自分の持つ素直な心を宝物と思い、新しい学年になっても決して忘れないでください。

新型コロナウイルスの心配は、なくなったわけではありません。お休み中も、必要な場所ではマスクをすること、手洗いをすること、密を避けること、この3つを守りましょう。そして、4月、元気にこの体育館で会いましょう。1年間、本当によく頑張りました。

表彰の記録

○令和2年度半田市男女共同参画コンクール標語部門

小学生の部 優秀賞 山本 結子（3年）

差別なき 個性認め合う 社会（まち）づくり

♣ 子育てアラカルト ♣

【子育てQ&A】 河合隼雄著「こころの子育て Q&A」より抜粋 （前号の続き）

⑪ 早期教育は、子どもにプラスですかマイナスですか？

A：就学前に大切なのは勉強ではありません。自由な遊びです。

⑫ 「ほめるが大事」と言われますが、どうも苦手です。

A：我が子のよいところを5つ考えてみたらどうですか。

⑬ 10歳なのに、一人で寝るのを嫌がるようになりました。

A：自立は不安を伴います。親の後ろ盾を確かめたいのです。

⑭ 個室を与えるのによい時期というのがあるのでしょうか。

A：「我が家の憲法」で「個室は何歳から」と決めればいいんです。

⑮ 父親として子どもにどう接していいのか分かりません。

A：普段は「まるごとの自分」、怒るときは「雷のち晴れ」です。

⑯ 中学生になって急に無口になるのはどうしてですか。

A：言葉にならないくらいにすごい体験をしているのです。

⑰ 同じ苦勞を子どもにはさせまいという思いが通じません。

A：「自分が考える幸福」を押しつけても役に立ちません。

⑱ 「キレそう」「カンケーねえよ」と言われてしまいます。

A：ただ言い合うのではなく、「本当の対決」が必要です。

⑲ 実際に問題が起こってしまったら、どうすればいいですか。

A：反省ばかりするのはやめて、「これから」を考えることです。

⑳ 親の話など聞いてくれず、絆が切れてしまいそうです。

A：強い絆よりも、深い絆で結ばれることを考えたらいいです。

（ある教育者のひとり言 より）